

## 平成28年度第2回花巻市立図書館協議会 会議録

○日 時 平成28年11月8日（火）午前10時00分～午前11時40分

○場 所 花巻市立花巻図書館 会議室

○出席者 (1) 委員

加藤暢之委員、市川浜委員、門馬優子委員、佐々木さつき委員、  
日下明久美委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、高橋久美子委員  
伊藤明徳委員（計9名）

(2) 生涯学習部 市川清志生涯学習課長

市立図書館長

中村光一花巻図書館長、吉田郁子大迫図書館長、多田広美石鳥谷図書館長  
盛田明広東和図書館長

(3) 事務局

城守敏浩花巻図書館副館長兼管理係長、伊藤佐代業務係長、  
菊池桂石鳥谷図書館主査、菅野和主任専門員

○欠席者 2名（小山田厚委員、高橋則子委員）

○傍聴人 なし

### ●次第及び協議内容等

・会議成立の報告（城守花巻図書館副館長）

・委員11名中9名出席。出席委員が構成員の過半数を超えており、図書館協議会規則第7条により本会議が成立することを報告。

### 1 開会（城守花巻図書館副館長）

### 2 あいさつ

（坂本知彌会長）

おはようございます。今年は夏から急に秋が飛んでしまって、もう冬が近くなってきたと思っております。皆様、体調には気を付けてもらいたいと思います。

図書館のアンケートの結果が資料と一緒に送られてきて読ませていただきました。市民の方たちが新しい図書館を期待しているのがひしひしと伝わってくるアンケートだと思います。今日はその話も聞けるので、どうぞ中身の濃いものにしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 3 議題（協議会規則により会長が議長となる。）

（1）平成28年度花巻市立図書館の事業実施状況等について・・・資料1

・平成28年度花巻市立図書館の事業実施状況等について、花巻図書館から順番に説明。

花巻：伊藤業務係長、大迫：吉田館長、石鳥谷：多田館長、東和：盛田館長

(坂本知彌会長)

それでは、今、各図書館から事業について発表いただきましたが、これについてのご質問ございませんか。

(高橋久美子委員)

花巻図書館で企画図書展や岩手県立図書館巡回展の参加者数が来館者となっていますが、他の図書館では企画展など、大体延べ人数何人となっていますが、花巻の場合は数えるのが大変で来館者としているものなのか、もしできれば企画展や巡回展をどのくらいの市民が見ているのか、知りたいと思いまして、そのところを伺います。

(伊藤業務係長)

花巻図書館では2階の一般閲覧室で企画展を行っていますが、そちらにいらしても、記帳などはしていないので、来館者とされています。もし載せるとすると来館者数となってしまいます、それでよろしいでしょうか。

(高橋久美子委員)

他の図書館では、どのようにして来館者数を出しているのですか。

(吉田大迫図書館長)

来館者とされています。1階ですので入ってきた方が自然に見るのかなあということですで来館者にしております。

(伊藤業務係長)

ただ、花巻では新聞だけの閲覧という方もありますので、来館者イコール閲覧者と言いますか、企画展をご覧いただいた方とは異なるところがあります。それで来館者という表記にしております。

(坂本知彌会長)

企画展が一室、別のところにあれば受付とかできるでしょうけど、職員が張り付いて受付をする人的な余裕は、どこの図書館でも無いのが現状だと思いますが、違いますか。

(中村花巻図書館長)

そうです。

(坂本知彌会長)

ですから、来館者がみんな見てくれたというふうに解釈していただければと思います。

(伊藤明徳委員)

そうであれば、そこに来館者の人数を入れていただければと思います。各館についてですが、おはなし会は幼児、このへんの対象者はそれぞれですね。例えば花巻ですと、0歳～2歳とか、3歳～4歳、大迫だと小学生以下という感じで、分け方というか、何か意図があってのことでしょうか。私的には単純に例えば、幼児とか、幼児であれば、0歳から小学校に入る前までとか、ちょっと広い範囲での対象者でもいいのかと。分け

ている意図というのは、例えば花巻ですと2歳までとか3歳から4歳とか別段分ける必要があるのでしょうか。

(伊藤業務係長)

対象のお子さんによって、絵本を選別させていただいている。なので、そのような設定になっています。花巻は対象者数も多いことがあると思うのですが、そのような状況で分けている状況です。

(伊藤明徳委員)

そうすると花巻では、第三金曜日とか第二土曜日とかもう少し細かく分けてやっているということですね。あのところは全部1つの幼児ということですね。

(坂本知彌会長)

ちょっと付け加えさせていただきます。ブックスタートが始まったのが平成14年なのですけれども、その時本を2冊配っていました。最初が、「いないないばあ」と「じやあじやあびりびり」だったと思いますが、そうすると赤ちゃん向けの本、本には何歳用と目安が書かれているので、そうすると「じやあじやあびりびり」と赤ちゃんの絵が描いていて「赤ちゃんえ~んえ~ん」と読み聞かせすると、そこにいるお母さんにだっこされた赤ちゃんが呼応するんですね。そういうふうな発達段階によって子供の特性があるから、それに合わせて、せっかくブックスタートで本を配ったから図書館にもっと来てほしいと願いを込めて、おはなし会を企画して今に至るというのが現状です。それに携わったものとして付け加えさせていただきました。

(門馬優子委員)

大迫中学校の生徒さんが選んだ本を職場体験時に展示したと書いておりますが、とても良いことだと思います。夏休み企画にこういうことをしたというのも良いことだと思いますし、各図書館でも中学生の職場体験というのがあると思いますが、それぞれ図書館では、職場体験はどのように取り組んでいるのでしょうか。

(坂本知彌会長)

受け入れたことがある図書館さん、お願いします。向こうから希望がなければ無い時もありますよね。

(多田石鳥谷図書館長)

うちでは石鳥谷中学校の子供たち、それから花北青雲高校と紫波総合高校から来ています。今年は高校生が来て、中学生は2日くらい来ていただいております。カウンターとか配架、図書の整理をしていただくなどいろいろ仕事をお願いしております。石鳥谷中学校の子供たちが来たときは、石鳥谷中学校にも団体貸出しをしているので、展示はしませんでしたが、その子供たちに本を選ばせて、それを団体貸出しの時に持つていつたりしておりました。

(坂本知彌会長)

自分たちが読みたい本を選んだということですね。それは良いですね。来た子供たち

も満足感もあるかもしれない。

(多田石鳥谷図書館長)

それから、つい先日の土曜日ですが、石鳥谷中学校の図書委員の方々が毎週土曜日のわくわくタイムに読み聞かせをしているのですが、図書館でやっている週もあるのですが、その週に石鳥谷中学校の生徒さんが入っていただいて、8～9人の図書委員が子供たちに読み聞かせをしてくださいました。

(坂本知彌会長)

他にございませんか。私も聞いていいですか。石鳥谷さんです。藍染めのワークショップ、場所はどこでやったのですか。

(多田石鳥谷図書館長)

玄関の前と言いますか、ちょうど屋根があるところがあるので、そこでやりました。

(坂本知彌会長)

図書と藍染は、全く逆で濡れたら困るとか、そういう場所があるのかなあと思いました。そこでできるのですか。

(多田石鳥谷図書館長)

玄関のところ屋根があつてポーチのようになっているので、そこでやりました。縄でそこに干しました。

(坂本知彌会長)

P Rにもなりましたね。そして実はすごい匠にも染物屋さんがありますね。石鳥谷にはそうすると、その染物屋さんも取り上げた時もあったと聞いていますので、そういうことも繋がって良いなあと思いました。ありがとうございます。

(多田石鳥谷図書館長)

そもそも市民ギャラリーに展示をしていただいた方が、そういうワークショップをやってみたいという声があつて、講師先生から始まったということで、今年は2回目でした。

(坂本知彌会長)

もうひとついいでしょうか。東和図書館です。みつはしちかこさんの展覧会を行ったのですが、その時に本をじっくり見たいと思ったのですが、あまり読めるコーナーがなかったんですね。図書館で特別展をやっているという案内が大きくあれば、帰りによつたのにと、すごく今見て残念に思いました。だから何かやる時にはリンクして、どっちにもP Rすれば相乗効果が表れるのかと思いましたし、全体的に特別展いろんなことをやっているのに、それが市民に知られていないのではないかと感じました。せっかく市の広報に図書館のコーナーがありますので、あそこ一角を本の紹介も良いけれども、本は図書館に行けばともかく有るわけですから、企画展が有ることも変わりばんこにP Rするのも1つのかなあと思った次第です。次に移ってよろしいでしょうか。

## (2) 図書館来館者アンケートの結果報告について・・・資料2

・(2) 図書館来館者アンケートの概要について、中村花巻図書館長から説明する。

また、石鳥谷図書館のアンケートに記述があった（また9月の市議会一般質問でも質問があった）読書通帳システムの導入について、委員の皆様からご意見を伺いたい旨お話をします。

(坂本知彌会長)

今、お話のあった読書通帳についてのご意見を伺いたいと思います。

(伊藤明徳委員)

自分で書けば良い。ちょっと考えすぎかもしれないけれども、システムを通すことになると、その情報が外に出ることも考えられる。そうすると、その人の主義・主張だととか思想的なものが特定される恐れがあるのかなあと。その辺もあるのかなと感じます。個人の読書歴を忘れないようにということであれば、ただ自分で書けば良い。どうしてもというのなら、手帳のようなものを図書館であげれば良いと思います。

(坂本知彌会長)

そうですね、どういう様式にすれば良いのか。読んだ日付と一行、二行感想を書くような、そのようなものがあれば、その人が自分で好きなように書いていけると思うのですが。備考欄でもあれば。

(中村花巻図書館長)

実際、導入しているところから聞きますと、子供たちの読書を推進するために、呼び水ではないですが、そういうふうなことで導入しているところが多いようです。

(坂本知彌会長)

それに1,000万円かけるのなら、本を買った方が良いです。本が十分行き渡ってお金の使い道が無いというならばいいけど。お金が足りない、あっちもこっちも直さなければならない。本もDVDも欲しいというなら、そちらの方に有効に活用していただきたいと思います。せっかくの市の財源ですから。でも、記録を取りたいという人のためには、ひな形のようなものを示す必要があると思うので、そういうことがあればどうなのでしょうね。両方満足するのかなあ。あと、委員さんどうでしょうね。加藤先生は。

(加藤暢之委員)

個人の読書歴であれば、個人の対応で良いと思うのですが。図書館としてデータが必要であれば、それはそのとおりだと思いますが、特に図書館が必要ないのであれば。

(坂本知彌会長)

皆さんからお考えを伺いたいと思います。市川委員さん。

(市川浜委員)

私も皆さんの意見のとおりだと思います。確かにそのことによって、今説明があった幼稚園とか小学生の時期に、そういうことが必要なこともあるかも知れないし、普及していく面では効果があるかも知れない。今、それなりに意見があるように、それぞれ必

要とするご父兄さんがサポートするならそれで良いような気がします。

(門馬優子委員)

私もシステム化することにはあまり賛成しません。個人がそれぞれ自分の記録を持つていれば、持ちたい人は持つていれば良いと思います。大人よりも子供は共通の手帳があると燃えますので、子供のためには良いかなあと思います。

(佐々木さつき委員)

皆さんの意見のとおりだと思うのですが、この要望が出たのは大体年齢はどのくらいの方から出たのかわかりますか。

(中村花巻図書館長)

小学生です。

(佐々木さつき委員)

小学生であれば、学校の図書館の貸出しの出入りを自分で手書きをしているので、そんなにまっさらのところからどうすれば良いというのが、わからないわけではないと思います。ちょっとそこのところを働きかけて、学校でもやり図書館でも、貸し出しの紙をお薬手帳のように貼っていくだけでも十分かと思います。

(日下明久美委員)

私もシステムを導入するだけのお金があれば、図書館の蔵書を増やすとか、そちらの方にお金をかけてもらいたいと思います。以前、東和図書館で「読書マラソン」というものをやっていました。やっぱり子供たちは、そうやって形になって目に見えてくるとすごく本を読もうとする気持ちになるのはよくわかります。だからシステムを導入するよりは子供たちの読書意欲を喚起するような方策をさっき手帳の話もありましたし、また「読書マラソン」をやってとは言いませんが。というのは、すごく人手でも掛かるし事務量もすごく煩雑です。どこの館でもそれをやるのは難しいと思いますが、こういうものがあると先ほどの手帳のようなものがあれば、カウンターにでも展示していれば良いと思います。でも、アンケートにこれを書いてくれた子供は、自分がどれだけ本を読んでいるのかを残したいという気持ちで書いたと思うので、そういう意欲はすごく大切にしてもらいたいと思います。

(伊藤明徳委員)

今、佐々木委員さんがお話をされたように、手帳や1枚の紙に書けるようにするだけでも良いのではないかと思います。本に対する意欲をもった子供たちに活かしてもらえばと思います。

(高橋久美子委員)

私もそういう記録用紙だけを図書館に置いておけば良いと思います。ファイルは自分で買って用意して表裏書いて、無くなったら図書館に来てまた何枚か貰って自分で書いてファイルに綴じていくという形で、紙に印刷したものだけを置いておけば、欲しい人は貰って紙に書いていくという形で良いと思います。

(佐藤三恵子委員)

子供が今、中学校1年生ですが、生まれてからずっと貸出カードをもらった時から全部記録をつけています。それは何故かというと、レシートだけだとタイトルは中途半端にしか載りません。あと返す時に照らし合わせて返し忘れていないかということを娘にも教えたいと思い、私も忘れないようにちゃんと借りたものは返そうねと、未返却であることが時々ありますよね。どこに行ったかわからない本が、結構小学校でも団体貸出でも行方不明になった本を石鳥谷図書館からお知らせがあってそうすると図書館にあつたりします。そういう貸し借りの意味での通帳であるならば、借りたものはきちんと返しましょうという、返し忘れないですかという有効利用になるのであれば、記録、通帳、先ほど高橋委員さんがおっしゃったような用紙というのも有れば良いのかなあと思いました。新システムを入れるくらいなら、配本にというのは賛成です。

(坂本知彌会長)

これで皆さんの意見が出そろいましたので、よろしくお願ひします。

(中村花巻図書館長)

ありがとうございます。

(坂本知彌会長)

これ以外のことについていかがでしょうか。アンケートに関するご質問、ご意見は。

(佐々木さつき委員)

これだけのアンケートに対しての答えをまとめるのは、すごく大変だったと思います。ご苦労さまです。ただ、この意見・要望に対しての答えはどこかに貼ったりとか、アンケートを書いた方に答えを返したりしていますか。

(中村花巻図書館長)

これからになります。まず、委員さん方にお見せして、逆にここをこうやった方が良いのではないかというご意見をお聞きして、意見がありましたらそこを付け加えながらホームページやカウンターに置いて、皆さんにご紹介したいと思っていました。

(佐々木さつき委員)

アンケートに答えた方は、声が通ったのだなあと、こういうように対処してくれたのだと見えれば安心すると思いますし、図書館の信用アップになると思いますので、大変だと思いますがよろしくお願ひします。

(坂本知彌会長)

他にございませんか。それでは、開館時間とか休館日というのは、ところどころ出でますが、各館によって違うのでしょうか。

(中村花巻図書館長)

開館時間は同じですが、休館日ですが花巻と大迫は月曜日の休みはありません。祝祭日は休みますが、あと東和と石鳥谷は月曜日が休館日になっていますが、正直言いまして、週に2日は休みますのでシフトを組むのが非常に大変です。他の館も同じように月

曜日休みを無くすということになりますと人件費等も出てきますし、逆に花巻が月曜日休みにするということになりますと、今、月曜日、火曜日と平日はあまり差がないのです。そこが急に休みになると、皆さんが何でということになります。そこが非常に問題です。本当は統一しなければなりませんが、なかなかそこまで至っていないというのが現状であります。

(坂本知彌会長)

システムを導入するお金がここにポンと有れば良いですね。そうすれば人件費に回せるとか。お金が無いということに行き着くような気がします。他にはございませんか。では、このアンケートを活かしていくようによろしくお願ひいたします。それでは、その他に移ります。

### (3) その他

#### ①平成29年度図書館運営に関する要望等について

(坂本知彌会長)

来年度の図書館の運営に関しての要望について、皆様からご意見を頂戴したいと思います。今のアンケートを活かしてということで、要望まで行っていたような気がしていましたが、それでよろしいでしょうか。特にはございませんか。

(伊藤明徳委員)

今新聞等でよく見かけるのですが、電子図書ということで、直接ある程度のパスワードなどは図書館からいただいた形で観る形になると思うが、そういうのはお金がかかるのですね。そうすればDVDにしてもCDにしても音楽にしても、まだ、あまり無いみたいですね。

(中村花巻図書館長)

新館構想の時に、そういうものを取り入れるという話になってくると思います。

(坂本知彌会長)

他にはございませんか。それでは、私の耳にちょっと入ったのですが、本を寄贈する場合のシステム、電話をしてからその寄贈を図書館で受けるかどうかが決まるまで、ものすごく時間がかかると聞きましたが、どのようにになっているのでしょうか。電話でこういう本を寄贈したいとお話した場合、それを受けるか受けないかということの審査のようなものがあるのですか。

(中村花巻図書館長)

実を言いますと、無い本であれば、こちらで受けたりしますが、各館に有る本ですとそれを貰ってもそれを活かせない部分が出てきます。それからスペースがありませんので、すみませんがそこをこちらの方で選ばせていただいているというのが現状です。

(坂本知彌会長)

それに時間がかかると言われたのですが、検索すればその本があるかどうかすぐわか

りますよね。そんなに時間がかかるのではないか。検索すれば図書館にあるかどうかわかるからと言ったのですが。

(中村花巻図書館長)

それからあつたとしても、その本の状態がどうなのかということもあります。今有る本もその辺も確認していただいたらしくて、その本がダメだったりすると、そうすると貰いたいという話にもなりますので、ある程度資料の確認などもしていただいております。

(坂本知彌会長)

それでは、電話よりも持ってきた方が良いのかしら。何かの全集だったみたいです。結果的には貴重であったことから図書館にお届けしたんですけど、ということだったのです。もし寄贈するということで、本の状態が悪くないのであれば、古本市とかそういうところに回すということはできないのでしょうか。

(吉田大迫図書館長)

全集とか文学全集だと花巻図書館にあって他の図書館に無い場合、所蔵が破損している場合もありますので、4館にメールで確認しまして各館で必要かどうかということで若干時間をいただいております。そして実際、1冊持って来ていただいて状態を見て、それから寄贈いただくという形をとっております。

(坂本知彌会長)

寄贈の場合は、電話が一番ですか。

(吉田大迫図書館長)

最初に電話をいただいた方が。あとコミックとか始めから図書館に所蔵しないようなものを持ってくる場合もありますので、その時はお返ししております。

(坂本知彌会長)

電話で申し込むのは、間違いではないということですね。リサイクルとか古本市に活用できないかと思いましたが、それも難しいですか。

(吉田大迫図書館長)

花巻図書館ではリサイクルはやっておりませんが、頂いた本人に確認してこれを他の図書館または他の古本市に出しても良いと御了解いただければ、今日も石鳥谷図書館から頂きましたが、今大迫図書館ではリサイクルですので、そして各館に渡したりしております。

(坂本知彌会長)

そこに出しても良いのであれば、お届けしても良いわけですね。それでは、花巻以外の図書館に持つて行けば良いと言っておきます。友達が結構本を処分しなければならないと言う話があります。本はとても重さで処分するのはイヤだし、本を大事にしてくれる所に持つて行きたいという思いがあるようですが、それでは、そのように伝えます。

(日下明久美委員)

東和図書館結いの会は、古本市を年2回行っています。できるだけ紙のゴミではなく本として次の人に手渡したいという気持ちで古本市をやっておりますので、良ければ東和図書館結いの会に寄贈いただければと思います。

(坂本知彌会長)

では、そのように伝えます。他に来年度の要望等はありませんか。

(佐藤三恵子委員)

度々この場で発言しておりますが、小学校の図書ボランティアを指導する役割の支援員さんを学校に回してほしいというお願いです。この間の県の読書ボランティア研修会の時も、すごくボランティアが増えてほとんどの学校に入るということで、感謝の言葉をおっしゃったのですが、実際、読み聞かせのボランティアがどういう活動をしているのかということには、そこまで踏み込んでいないというか、ボランティアがいることにも、それで感謝してくださるわけですが、実際、私が小学校ボランティアと接していて、目的と意義ということあまりよくわかっていないのかなと。私は、小学校読書ボランティアは読書支援、子供が自力での豊かな読書を目指すための手助けをする役割だと思います。今、読み聞かせといういろんなパフォーマンス的に、いろんな演技をするような読み聞かせをする方々がクローズアップされているせいか、小学生に幼児向けの絵本を読み聞かせすることが読み聞かせだと思っているボランティアさんもいらっしゃる。1ページに1行だけの文章の絵本を読んで記録などには絵を見ていたとか、高学年になって、今日は小さい子供に戻って聞いてくださいと言って幼児向けの本を読む。先生たちは、小学生にこういう本を読んでほしいということも遠慮しておっしゃらないし、ボランティアたちが自力で学習して、小学生にどんな本を読むというそのような場がないのです。働いているお母さんたちが、自分の時間をつくって朝読み聞かせに来てくれているので、お母さんたちに図書館や県で開催している研修会にぜひ出て読み聞かせについて学んでくださいと言っても、仕事しているからという感じで学びの場もありません。そういう読み聞かせをしたいという意欲はあるけれども、意義と目的に沿った読み聞かせをして、花巻市の小学校の子供たちにより良い読書の楽しさを知ってもらうには、やはり指導する人、支援する人が必要だと私は思います。そういう支援員をぜひ要望したいと思います。

(坂本知彌会長)

本当なら学校司書さんがいれば、司書教諭がいれば良いことなのですが、あれは全学校に配置されていませんね、加藤先生。そうだとするならば、次の策として図書館の方から学校図書館に、ボランティアさんの指導に学校を回っていただくことは考えられないものでしょうか。當時いてほしいということではなく、せめて月に1回2回でも回つていただけたら、ボランティアの人たちもより活動がしっかりできるだろうし、学校図書館も良くなる。ひいては子供の読書の推進にもなるのではないかと思います。難しいとは思いますが、何とかならないでしょうか。

(佐藤三恵子委員)

昨年石鳥谷小学校では図書整理をして、石鳥谷図書館の菊池桂さんに来ていただいてラベルから何から替えました。私が大きかったと思うのは、背が日に焼けて字が赤くなつて何もわからなくなつてしまうのですが、それをパソコンで打ち出して新たに背表紙を貼ると本が生き返って、貸出しあはそこから借りていきます。背表紙は小学生にとって大事なのです。そうすると新しい本を買う経費よりも安い額でその本が蘇り、子供の元に手渡していくことを私も体験しました。石鳥谷小学校の背表紙だけではなく、多分日に当たっている各学校の図書室の本は背表紙が見えなくなっているものが沢山あると思います。そういうことを支援員さんが回って歩いてボランティアさんにここをこうすればもっと子供が借りていきますと指導してくだされば良いと思います。

(坂本知彌会長)

体験談から出た本当に良い要望だと思います。ぜひ実現するようお願ひいたします。

(中村花巻図書館長)

ここで出来ますと言える立場ではありませんが、こちらとしても極力努力してまいりたいと思います。

(坂本知彌会長)

他に29年度に向かっての要望はございませんか。それでは、次の図書館の建設についてお願ひいたします。

## ②図書館の建設について

(市川生涯学習課長)

生涯学習課の市川です。図書館の建設について説明いたします。前もって資料を送らせていただきましたので、概要を説明したいと思います。

まず、最初に申し上げたいのは、今回この案を皆様方からご意見をお聞きして手直しをいたしまして、次回協議会で最終的なところで確認をいただければ、市の案として公表したい、という予定で考えているものです。今日全部決めてしまいたいというものではございません。まず、原案をご説明したいというものであります。

2ページ、目次をご覧いただきたいのですが、目次を見ますと大体わかるような形にしております。

全体で3部構成にしておりまして、「1」が新花巻図書館整備の背景ということで図書館の近年の状況、花巻図書館の整備の必要性、またこれまでの経過、この基本構想の位置付けです。「2」といたしまして、花巻図書館の現状と課題、全体4館も含めまして花巻の図書館の状況をまとめたのが「2」です。「3」といたしまして、その「1」と「2」を踏まえまして、新しい花巻図書館の整備に関する方針、このように進めていきたいというものが「3」でございます。

まず、4ページをお開きいただきたいのですが、(4)この基本構想の位置付けです。こ

の基本構想は、平成24年10月に「花巻図書館整備市民懇話会」の皆さんから提言を受けた「花巻図書館への提言」というものがございます。それを基本といたしましてそれ以降のご意見等を踏まえた形で、基本的な構想を定めるものです。この基本構想の次には基本計画、基本設計、実施設計と具体的な設計を経て建設に入っていくのですが、今回の構想はその根幹となるものということです。また、この構想は花巻市まちづくり総合計画や花巻市教育振興基本計画とも整合性があるものです。5ページから9ページまでは現図書館の状況でございます。10ページから新しい図書館の基本構想です。

基本方針として3つを掲げております。郷土の歴史と独自性を大切にし豊かな市民文化を創造する図書館です。花巻には数多くの先人を輩出している、そういうところから郷土資料や先人の資料の充実を図りたいというもの。2つ目は、全ての市民が親しみやすく使いやすい図書館です。3つ目が、暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ、知の情報拠点としての図書館です。2番目、3番目は一般的なですが、2番目は、バリアフリー、ユニバーサルデザインという今の図書館の流れだと思っております。3番目も沢山の蔵書、多岐に亘る本がある図書館ということです。花巻の特長を出すとすれば、先人や郷土、歴史を強めていきましょうという基本方針です。この3つの方針は、平成24年10月の提言書に基づいており、ほぼ同じ内容です。

11ページからは、整備方針、施設に関することと蔵書資料に関するなどを順次書いておりますが、ご覧いただいて一般的なところかなと思います。バリアフリーとか、アンケートにもあった駐車スペースやエレベーターなど課題を踏まえ12ページまで書いたつもりです。

13ページの（3）が建設場所に関する方針です。建設場所につきましては、これまでの意見や平成24年10月の提言書によりますと、まなび学園のあたりや駅前などアクセスのよい場所、都市計画を意識した場所などというような提言をいただいておりました。これらと近年の立地適正化計画、街中に機能を集約していきましょうという動きを踏まえまして、その立地適正化計画の都市機能誘導区域に整備したいというものです。具体的には花巻駅から旧市街地の厚生病院の跡地辺りまでを都市機能誘導区域に設定しております。立地適正化計画の市民説明の中では図書館の候補地としてはまなび学園付近を考えて市民の皆様にも公表しているのですが、そこも含めて旧市街地に立地したいというものです。あと皆様からご意見をいただきながら、基本計画策定時には立地場所具体案を2・3出して議論していきたいと考えているものです。

以上、まずご説明いたしましたが、後でご意見を文書などで頂いても全く構いませんのでよろしくお願ひいたします。

(坂本知彌会長)

ありがとうございます。それでは新しい図書館に関する皆様のご意見、ご要望、お考えでしょうか。そういったものをお聞かせいただければと存じます。

(市川浜委員)

これから先のことなのですが完成するまでの先の話になりますが、大ざっぱに言って大体どのような年度でどうなっていくのか、今の段階でどのようにお考えになっていますか。

(市川生涯学習課長)

今年構想の原案を策定して、来年度早々4月以降には市民に公表したいと思っております。市民のご意見がまとまりましたらそのあとに具体的な計画、つまりは場所、大きさ、蔵書数などを含めた計画を定めたいと思います。その計画が終わってから設計に入ります。つまり、来年度は構想を定め、その後計画を策定、それが29年度か30年度、そして設計が31年かといった感じです。よって早くても32年度くらいから建設という感じかと思います。

(市川浜委員)

今までかなり時間をかけて構想なり計画なり、あるものはゼロになってしまったものもありますが、今お話の中では構想等は前回まとめたものある程度活用できる部分もありますので、その分は時間の短縮ができると思いますが、今聞いていると早い年度で32年度となりますか、そこら辺りのことばかりではなく、いろいろ課題が他にもあると思いますが、そういうものに左右される要素などは、今の時点では考えられませんか。

(市川生涯学習課長)

左右される要素は、やはりいろいろあります。

(市川浜委員)

例えば、国の補助的なものとか。

(市川生涯学習課長)

大きいところはやはり花巻病院の移転がどうになるかかと思います。花巻病院もまだ設計にも入っていないので、市の補助や建設時期とかそういうものも変わってくると思いますので。

(坂本知彌会長)

他には。

(高橋久美子委員)

そうしますと、今花巻病院跡地ということでしたが、そうすると広さが決まっていますので、どのくらいの広さの図書館が建てられてどのくらいの台数の駐車場が確保できるかというのも大体わかるわけですね。

(市川生涯学習課長)

花巻病院跡地に図書館を建てると決まったものではありません。今、駅前から上町、吹張町、旧市街地にかけての区域に造りたいということです。立地適正化計画上はまなび学園の周辺を想定していますが、あの周辺は営林署の跡地や中央公民館の跡地もあります。広い区域なのであるあたりが候補地としては以前から話はありましたので、ただ

具体的に大きさや駐車場まではまだ計算していません。

(高橋久美子委員)

今、まなび学園周辺で駐車場が狭くて何か行事があると車がなかなか停められない状況なので、それに更に広い図書館と広い駐車場となると、用地買収とかそういうことが更に必要になると思うのですが、そうすると、図書館の広さがこのくらいあって、駐車場がこのくらいになってというのは考えていなくて、まず用地が取れるかどうかというのが先ということですか。

(市川生涯学習課長)

いずれは基本計画を立てていく段階で、駐車場は何台ないとダメだとか議論になると思いますが、用地買収が必要な場所となると買い取れる場所なのかあるいは全くここでは無理だとか、ということも検討していかなければならなくなると思います。今の段階で、駐車台数などまだ検討していなくて、今後の基本計画の段階で皆様からご意見をうかがいながら候補地を設定していくような形にしたいと思っております。

(高橋久美子委員)

そうするともし用地が狭い場合は、3階とか5階建の図書館でエレベーターが付いてということを考えられるということでしょうか。

(市川生涯学習課長)

そういうことももちろん考えられると思います。できれば平面が良いとは思いますが、例えば土地を買うのに何億もかかるという場合、じゃあ3階建てでエレベーターを造った方が安いということであればそちらの方も考えられると思っています。

(坂本知彌会長)

市民懇話会では複合施設という提言もしたと思いますが、今回も複合施設というふうに中ホールみたいなあまり大きくないホールも備えた図書館というような提言だったと記憶していますが、その点については全く白紙でその要素、エッセンスだけを取り入れて構想を作り上げるということになるんでしょうか。

(市川生涯学習課長)

市民懇話会の提言では、催事ホール、ギャラリーなど展示するところとかオープンスペースというようなご意見もいただきまして、計画段階で考えていきたいと思っています。ただ500人規模のホールとなると、前回は計画しているのですが、なかなか難しいと思っています。文化会館もありまして、これは1000人のホールですが、これも古くなっています。これも検討しなければいけない時期には来ています。昭和50年建設ですので、そういうことも踏まえますと、なかなか文化会館を維持して別に500人のホールを造るのかというと一般的には大変だと思っています。

(坂本知彌会長)

まなび学園でホールというのが体育室ですから、あそこの使い勝手が非常に良くないのです。特に高齢の方がまなび学園を利用されていますが、階段が不便だからとかお手

洗いが下にしかないからとかそれならばちゃんとしたまなび学園の生涯学習の発表の場として使えるようなホールが有ればより良いなあと思っております。

(市川生涯学習課長)

なかなか体育館を無くしていいかと言うと、体育館も使われており残してほしいという意見もあります。その辺は皆さんのご意見を聞いていきたいと思っております。

(坂本知彌会長)

まなび学園祭の時にあそこの階段がネックでという声を聞くと、ちゃんとした所があればと思います。他はございませんでしょうか。心残りはありませんか。

(市川生涯学習課長)

新しい図書館の根幹になる大きな方針として今回の構想は書いておりまして、次の計画段階で蔵書数はいくらとか細かいところ、建設費がいくらというようなことで出していきたいと思っていますので、最初に申し上げましたがいろいろご意見がありましたらどんどんお寄せいただいて構いませんのでよろしくお願ひします。やはりいろいろ思いがありまして蔵書は50万冊とか県立図書館並みにという意見もあろうかと思いますが、市の規模や財政的なものもあります。その辺はこちらで整理して考えながら計画などで説明していきたいと思いますので、皆様からご意見頂ければと思いますのでよろしくお願ひします。

(坂本知彌会長)

それでは今言い足りなかった点、それから後から思いついたとかそういったことがありましたら、ぜひ生涯学習課に電話やお手紙でも良いそうです。ファックスでも良いそうです。どうぞお寄せいただければと思います。

(日下明久美委員)

すみません。私もう少し早い段階で言うべきだったのですが、ぜひこの場で言っておきたいことがあります。この間、職員と図書館協議会委員の研修会があってアイーナに行って勉強してきましたが、これからはレファレンスがすごく大事だと感じてきました。今までの話の中で、例えば学校図書館に支援員を派遣するとか、本の予約をもっと充実させるとか他館からも借りてきてお貸しできるようにするとか、みんなが望むことを実現するためには人が必要だと思います。今いる人材で風船のようにどんどん皆さんの要望に応えて、多分図書館では対応してきていると思いますが、新しいことが増えれば増えるだけ人が必要だと思います。そういうことができていないと、良いレファレンスはできないと思うので、ぜひ人員を増やしてもらいたいと思います。新しいことをやる時には、それに対応した人を配置できる体制をとっていただきたいと思います。

(坂本知彌会長)

しっかり受け止めていただいて人材を増やしていただくということで、何とかよろしくお願ひいたします。後はございませんでしょうか。それでは事務局にお渡しいたします。

4 その他  
なし

5 閉会（城守花巻図書館副館長）